

接種費用

無料

全額公費

RSウイルス母子免疫ワクチン 定期予防接種のお知らせ



このお知らせをよく読み、理解した上で接種を検討してください。

どんな予防接種？

- ✓ 生後間もない赤ちゃんや小さなお子さんをRSウイルス感染症から守るために、妊娠中に受ける予防接種です。
- ✓ 妊娠中に接種することで、胎盤を通じて赤ちゃんに抗体を届け、出生後すぐからしばらくの間、赤ちゃんを守ります。

対象者	福島市に住民登録があり、接種当日に 妊娠28週0日目から36週6日目 の方 ※過去の妊娠時に組換えRSウイルスワクチン(母子免疫ワクチン)を接種したことのある方、過去にRSウイルス感染症にかかった方も対象
接種回数・費用	1回・無料(全額公費)

RSウイルス感染症ってどんな病気？

- ✓ 乳児に多い急性の呼吸器感染症です。特効薬はありません。
- ✓ 感染すると、発熱、鼻水、咳などの症状が出現し、初めて感染した乳幼児の約7割は軽症で数日のうちに軽快しますが、約3割では咳が悪化し、重症化することがあります。
- ✓ 1歳までに50%以上、2歳までにほぼ100%が、少なくとも一度は感染するとされています。

🕒 接種の流れ

① 医療機関を選ぶ ・市登録医療機関(最終ページ)から、接種医療機関を選びましょう。

② 予約する ・選んだ医療機関へ電話などで直接予約をしてください。

③ 接種を受ける 持ち物 ①予診票(このお知らせに同封) ②胎児の母子健康手帳 ③マイナンバーカードや資格確認証など

ワクチンの効果

	生後0～90日	生後0～180日
RSウイルス感染による医療受診を必要とした下気道感染症*の予防	6割程度の予防効果	5割程度の予防効果
RSウイルス感染による医療受診を必要とした重症下気道感染症*の予防	8割程度の予防効果	7割程度の予防効果

*1 下気道感染症：気管支炎や肺炎など

ワクチンの副反応・安全性

ワクチンを接種後に以下のような副反応がみられることがあります。
接種後に気になる症状がある場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

発現割合	主な副反応
10%以上	疼痛* (40.6%)、頭痛(31.0%)、筋肉痛(26.5%)
10%未満	紅斑*、腫脹*
頻度不明	発疹、蕁麻疹、ショック、アナフィラキシー

*ワクチンを接種した部位の症状

●ワクチン接種による妊娠高血圧症候群の発症リスクについて

薬事承認における臨床試験では、妊娠高血圧の発症リスクは増加しませんでした。海外では一部、妊娠高血圧症候群の発症リスクが増加したという報告もあるものの、解釈に注意が必要であるとされています。

●早産などのリスクについて

国の審議会における議論では、早産・死産・低出生体重児など重篤な副反応の頻度は（ワクチンを受けた人と受けてない人とで）同等であり、重大な懸念は認められなかった、とされています。

（「第32回予防接種基本方針部会ワクチン評価に関する小委員会（令和7年10月22日）小児におけるRSウイルス感染症の予防についての議論のまとめ」より）

RSウイルス感染症の定期接種（母子免疫ワクチン）についての説明書 接種前に必ずお読みください

RSウイルス感染症とは

RSウイルスは、特に小児や高齢者に呼吸器症状を引き起こすウイルスで、1歳までに50%以上、2歳までにほぼ100%の乳幼児が、少なくとも1度は感染するとされています。感染すると、2～8日の潜伏期間ののち、発熱、鼻汁、咳などの症状が数日続き、一部では気管支炎や肺炎などの下気道症状が出現します。初めて感染した乳幼児のうち、約7割は軽症で数日のうちに軽快しますが、約3割は咳が悪化し、喘鳴（ゼーゼーと呼吸しにくくなること）や呼吸困難、細気管支炎の症状が出るなど重症化することがあります。2010年代には、生後24か月未満の乳幼児における年間のRSウイルス感染症発生数は12万人～18万人であり、3万人～5万人が入院を要したとされています。また、入院例の7%が何らかの人工換気を必要としたとする報告もあります。

RSウイルスの流行には季節性があり、以前は秋冬に流行が見られましたが、近年は夏に流行が見られています。接触や飛沫により感染するため、手洗いや手指消毒など基本的感染対策が有効です。

治療は、症状に応じた治療（対症療法）が中心で、重症化した場合には酸素投与、点滴、呼吸管理などを行います。

母子免疫ワクチンとは

生まれたばかりの乳児は免疫の機能が未熟であり、自力で十分な量の抗体をつくることができないとされています。母子免疫ワクチンは、妊婦が接種すると、母体内で作られた抗体が胎盤を通じて胎児に移行し、生まれた乳児が出生時から病原体に対する予防効果を得ることができるワクチンです。

使用する母子免疫ワクチンは、組換えRSウイルスワクチン（ファイザー社のアブリスボ®）です。

接種できない方

- ・接種当日、37.5℃以上の発熱がある方
- ・急性で重症な病気にかかっている方
- ・このワクチンの成分によってアナフィラキシー（急激な全身性のアレルギー反応）を起こしたことがある方
- ・その他、医師が「予防接種ができない状態」と判断した場合

接種に注意が必要な方（かかりつけ医にご相談ください）

- ・妊娠高血圧症候群の発症リスクが高いと医師に判断された方や、今までに妊娠高血圧症候群と診断された方（接種によって妊娠高血圧症候群の発症リスクが上がるという報告もあるため）
- ・血小板減少症や凝固障害がある方、抗凝固療法を実施されている方
- ・心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患がある方
- ・免疫不全と診断されている方
- ・近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ・予防接種を受けて2日以内に発熱や全身性発疹などのアレルギーを疑う症状をおこしたことがある方
- ・過去にけいれんをおこしたことがある方
- ・本剤の接種液の成分によってアレルギーをおこすおそれのある方

他のワクチンとの同時接種・接種間隔

医師が特に必要と認めた場合は、他のワクチンと同時接種が可能です。

ただし、海外の知見で、百日咳含有ワクチン（三種混合ワクチンなど）との同時接種で、百日咳菌の防御抗原に対する免疫応答が低下するとの報告があります。接種間隔等については医師と相談してください。

接種を受けた後の注意点

- ・ワクチンの接種後30分程度は安静にしてください。
- ・体調に異常を感じた場合は、速やかに医師へ連絡してください。
- ・注射した部分は清潔に保つようにしてください。
- ・接種当日の入浴は問題ありません。
- ・当日の激しい運動は控えるようにしてください。

もしものときのために知っていただきたいこと～予防接種健康被害救済制度～

予防接種は、感染症を予防するために重要なものですが、健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が起こる可能性はゼロではありません。極めてまれではあるものの、副反応による健康被害をなくすることはできないことから、救済制度が設けられています。

接種を受けたご本人及び出生した児が対象となります。診察した医師や、市感染症・疾病対策課にご相談ください。

もっと詳しく知りたい方は、厚生労働省ホームページをご覧ください

